



Interview #4 移住者 インタビュー

すえやす しんた
末安 心太さん

1981年福岡生まれ。わずか5歳で初個展を開き、以降全国で個展を開催。2010年中津市耶馬溪町に家族で移住し窯元兼cafe「しきろ庵」を開業。子育てとcafeの店主と作陶をされています。

Iターン×起業

耶馬溪に移住しようと思われたのは、なぜですか？

日田から耶馬溪に向かう途中にある大石トンネルを抜けた瞬間の風景が好きなんです。周辺には『土』と付く地名もあり、釉薬の材料となる灰や土も採れる。作陶するのに魅力的な土地でした。ここには昔ながらの景観が残り、住んでいる皆さんもとても寛大。移住者を受け入れ、困ったときにはサポートしてくれる体制があります。

人とのつながりが濃く、ご近所のご年配の方から暮らし方や人との付き合い方を学び、逆にスマホの使い方や尋ねられることもあります。子育てにも作陶するにも、ここはびったりの環境でした。

移住して最初にされたことは？

ここ『しきろ庵』は、もともと古い土間と納屋でした。そこを少しずつDIYしながら、私たちに必要な

空間をつくっていったんです。公園や広場が近くにないので、子どもたちが遊べる場所を敷地内につくろうと考えました。入り口には芭蕉の木を植え、裏山の檜を伐ってトーテムポールを立てました。カフェの隣には、地域おこし協力隊が作ってくれた可愛い小屋も残っています。

店内のカフェスペースには高い天井から大きなシャンデリアを吊るし、ストーブや好きなレコードを飾って、私たちらしい空間にしました。店内奥は、当初の土間の床を活かしながら作品を展示するギャラリーにしていますので、訪れる方々に、楽しんでいただけたら嬉しいです。



耶馬溪ってどんなところですか？

私たちにとっては『見える範囲に食料もすべて揃っている場所』ですね。ただ近所にパン屋さんなかったのが、「ないものは作ればいい」という考えから、妻がパンを焼くようになりました。町内の高校に売店がなく生徒がパンを買えないと聞けば、妻が焼いたパンを販売したこともあり、生徒たちに喜んでもらえたようです。

カフェでは、最初はサンドイッチを提供し、その後は地元の牛乳とパンで作る期間限定のフレンチトーストを出したり、果実や自家製シロップ、アイスなどを使ったオリジナルかき氷も提供しています。食べ物も人とのつながりも、体にもいいものが全てこの土地につながっているようです。



ここに住んでよかったことは？

緑が多く、庭のある暮らしができること。そして地域の大人たちが、うちの子どもの悪さをしたらきちんと叱ってくれることがありがたいです。都会では他人の子を叱るのは難しいですし、近所付き合い



が希薄ですね。でも、ここでは地域全体が子どもを見守り育ててくれます。うちの4人の子どもを、地域の皆さんと一緒に育ててきた感覚があります。一方で、毎日忙しいですね。やる事が次々にあって、のんびりしてられません(苦笑)。でもその分、暮らしの充実を感じられます。

これからやりたいことや目標はありますか？

私たちが移住してから1年ほどで東日本大震災があり、その後移住者が増えました。受け入れるために、地元の方々がクラフトフェスを企画したり、受け入れる仕組みを整えてくださったおかげだと思います。

耶馬溪の観光も気になるところですが、まずは私たちにできることを地道に続けていくことが大事だと感じています。この地域で脈々と受け継がれてきた『人とのつながり』を、果たして自分が年を重ねたときに若い世代へ渡していけるのか。そこが大きな課題であり、今の私の目標でもあります。

移住してよかったことランキング

1位 農産物が美味しい

2位 家族との時間が取れるようになった

3位 空気が美味しい

耶馬溪地区の暮らしを支える施設

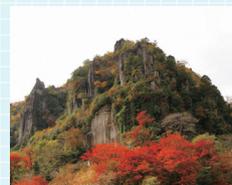
《子育て・教育》

- 保育園 3園
- 小学校 3校
- 中学校 1校
- 高等学校 1校

《医療》

- 病院、診療所 4施設
- ※ 下記含む
- 病床のある病院 1施設
- 小児科 3施設
- 歯科 1施設

耶馬溪地区のピックアップ



一目八景

深耶馬溪を代表する景勝地。展望台から群狼山、鷹ノ巣岩など八つの景色が一望でき、特に紅葉の季節は圧巻です。



耶馬溪アクアパーク

全国でも珍しい公営水上スキー施設。水上スポーツだけでなく、湖面遊覧やバナボートなども楽しめます。



渓石園

12万個以上の石を使い、耶馬溪の渓谷美を表現した雄大な景色が広がる日本庭園。



城井トンネル(鉄道遺構)

神秘的な雰囲気漂う、レンガと切石で積み上げられた旧耶馬溪鉄道の区間にある隧道。